

## 国際日本文化研究センター運営会議（第72回）議事要旨

日 時：令和5(2023)年9月8日（金）13:30～14:50

場 所：国際日本文化研究センター第1共同研究室等

出 席：クレインス・フレデリック（議長）、赤松 玉女、荒木 浩、磯田 道史、牛村 圭、金水 敏、楠 綾子、関野 樹、高木 博志（副議長）、瀧井 一博、竹宮 恵子、本郷 恵子、松田 利彦、松原 隆一郎、三谷 博、劉 建輝の各委員

陪 席：井上所長、里見管理部長、山口総務課長、永田総務課課長補佐、塩見人事係長、中山総務企画係員

議 事：

### 1. 審議事項

#### （1）議事要旨（案）について

クレインス議長から、「国際日本文化研究センター運営会議（第70回）議事要旨（案）」（資料1）に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

#### （2）所長候補者選考について

クレインス議長及び所長候補者選考事務局長（管理部長）から、「人間文化研究機構国際日本文化研究センター 所長候補者選考スケジュール」（資料2-1、別冊1）に基づき、選考の経緯について説明があった。

続いて、「所長候補者選考の投票の流れについて」（資料2-2、別冊1）に基づき、所長候補者選考の手順等について説明があった。また、「国際日本文化研究センター所長選考手続きに関する申合せ」に明文化されていない事項（申合せ第4関係）の取扱いについて審議され、承認された。

さらに、クレインス議長から「推薦候補者名簿」（別冊2）に基づき、推薦の状況について説明があった。

推薦候補者名簿に記載の 井上 章一 氏について、委員による投票を行った結果、同氏が所長候補者に決定された。

また、クレインス議長から、所長候補者となった 井上 章一 氏に次期所長へ就任する意思のあることが確認され、運営会議に報告された。

この結果、井上 章一 氏を所長候補者として、人間文化研究機構長に推薦することとなった。

委員から以下のとおり発言があった。

- ・所信表明に書かれていることはもっともであるが、国際と名のついた日文研で、海外に向けてもっと積極的に発信すべきである。日本の人文学・社会学は国際学界において存在感が薄いので、日文研に期待されている役割を維持するためには、意識的に国際発信の努力を積み重ねる必要がある。

#### （3）その他

なし

### 2. 報告事項

(1) 研究教育職員等の現員等について

総務課長から、「研究教育職員等の現員等について」(資料3)に基づき報告があった。

(2) その他

なし

3. その他

各委員から以下のとおり発言があった。

- ・教授と准教授・助教のバランスの改善が急務であるとの発言があり、松田委員から若手の准教授の採用や女性教員の採用を通じて世代間バランス・ジェンダーバランスの解消に向けての取組を実施しているとの回答があった。
- ・人文系の評価基準についての質問があり、牛村委員から機構本部や各機関と連携し、引き続き取り組んでいると回答があった。
- ・現在、人文系の学術全体が学会の中でできるだけ動向から外れないような論文を書くことが求められている。キャリアを積むためには学会全体の動向を見極めながらそれに合わせた研究が主流となっていく状況にある。このような状況では、イノベーションが期待できない。日文研のように横断的、学際的な視点を重視する研究機関が活気のある研究を生み出していく努力を続けてほしいとの発言があった。
- ・漫画など様々な媒体を通じてもっと一般の人々から評価を得る積極的な努力が必要であるとの発言があった。
- ・査読論文にカウントされやすい研究ばかりにならないように、さまざまな成果や領域を生むようなものである場合は著書だけでなく、内容として別の評価もさらに加えられるように問題提起を進めて、また、一般の人々にも分かりやすい、関心のある研究を通して学問の価値を知ってもらうことも進めてほしいとの発言があった。

以上